

記者発表（発表・資料配付）				
月／日 （曜日）	事務所等名	電話	発表者（担当者）	配布先
3／13 （水）	県立農林水産技術総合センター （農業技術センター農産園芸部）	0790- 47-2424	所長 高松 宏文 （研究主幹（果樹・花 き担当）山中 正仁）	北播磨県民局

ブドウの早期品種更新のための休眠枝を用いた高接ぎ技術

最近、シャインマスカットなど消費者の嗜好性の高い新品種が発表されています。ブドウ経営を安定させるためにも、これら新品種の導入が急がれますが、苗木による更新では収穫開始までに2、3年、成園（*1）なみの収量を得るまでに5年程度要するのが課題です。そこで、高接ぎ翌年には成園の2～3割（品種による）の収量を得られ、2、3年後には成園なみの収量を得られる休眠枝（*2）を用いた高接ぎ技術を開発しました。

1 技術の特徴

これまでは、緑枝を用いた高接ぎ技術がありましたが、活着（*3）が不安定なため、購入した苗木（一般に地上20～30cmの台木に果実を収穫する品種の枝を接ぎ木）の定植による品種導入が行われてきました。これに対して休眠枝を用いた高接ぎ技術では、既存品種の枝を残した状態で接ぎ木することで早く枝の拡がり回復するとともに、緑枝接ぎよりも活着が安定するため、より早く収量が回復します。

2 * 語句の説明

- 1) 成園：枝が果樹園全体に拡がった状態で、園として最大の収量を得られる。
- 2) 緑枝、休眠枝：発芽期から落葉期までに伸びた枝が緑枝（色が緑色）、落葉後から発芽前の枝が休眠枝（色が褐色）。
- 3) 活着：枝同士が着き、養水分が流れる状態になること。

3 取材時期

- ・3月：活着した枝の伸長状況
- ・5月下旬～6月：高接ぎ方法
- ・7～8月：高接ぎ樹の枝の伸長状況
- ・8～9月：高接ぎ樹の成熟期

4 本技術の導入状況と今後の方針

加西市、三木市などの一部生産者に導入が始まりました（約2ha）。今後、県の実証事業（果樹生産新技術実証事業）や研修会等により、北播地域や県下他産地（約280ha）への技術導入を進めます。

5 問い合わせ先

兵庫県立農林水産技術総合センター 農業技術センター 農産園芸部
〒679-0198 加西市別府町1533 TEL：(0790)47-2424 FAX：(0790)27-8433

補足資料



接ぎ木した枝が伸び始めた様子（当年5月）



枝が旺盛に伸びている様子（当年7月）



翌年、枝が伸び始めている様子（5月）



接ぎ木した枝に果実が着いた様子（翌年7月）

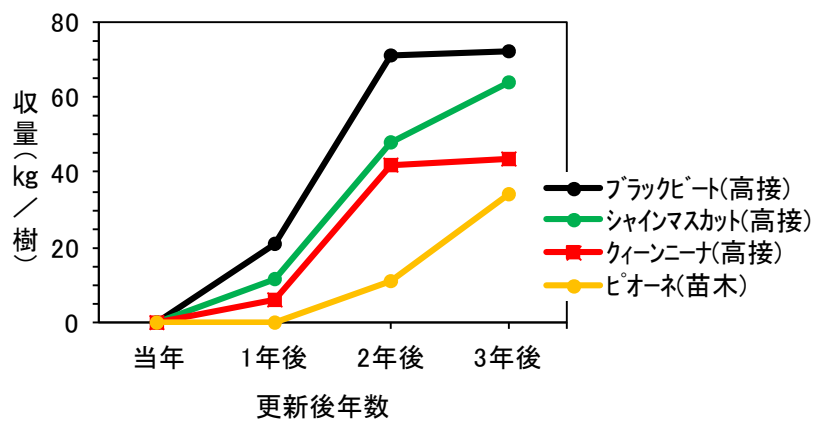


図 更新後の収量

成園時の標準的な収量は、ブラックビートおよびシャインマスカットは60kg、クィーンニーナは40kg